第３回　櫛田川自然再生検討会　議事要旨

日時：平成 24 年 3 月 6 日（火）　14:30～16:30
場所：津市橋北公民館施設　研修室Ａ（アスト津４階）

１．開　　会

２．挨　　拶　（三重河川国道事務所長）

３．議　題

(1)第２回櫛田川自然再生検討会　議事要旨について（資料-1(1)、(2)）

第２回櫛田川自然再生検討会議事要旨について説明し、主に次のような意見をいただいた。

・最近の事例には、平均河床高が変わらなくても澪筋が狭くなり最深河床が下がる現象がある。河床変遷は、平均河床高とともに最深河床高も整理したほうがよい。
・仔アユ降下量調査は、アユ資源量を確認するうえで長良川などの調査と比較することに意味がある。櫛田川の流下仔アユは、比較などできる範囲で量的な説明をお願いしたい。
・出水後の濁水は、洪水１週間後に濁水があると濁りが残っている感覚なので、環境基準達成も目安だが、環境基準を下回ることで本当にいいとは言いきれない。
・櫛田川下流の水質は、両郡橋の集水面積に対するダム流域面積の割合は小さいので、基本的にダムによる大きな影響はないと思う。
・ダムによる濁水の影響は、ダム直下での供用前後の濁り変化を整理することで把握できると思う。
・アユの遡上は、水質だけでなく孵化率と関係している可能性があるので、水質と遡上率の比較だけでよいかと感じた。

(2) 櫛田川自然再生計画書（素案）について（資料-2(1)、(2)）

櫛田川自然再生計画書（素案）について説明し、主に次のような意見をいただいた。

・計画書の構成は、２章と３章の対応関係をつけ、整合をとったほうがよい。
・「水際で陸域化の傾向が見られる」とあるが、「水際」とはあくまでも水と陸が接する境界なので「陸域化で冠水頻度が低下する」など適切な言い方とするほうがよい。
・SS 平均値は、昭和 50 年の数値が大きいのでよく精査されたほうがよい。
・確認個体数の調査データは、調査方法や努力量がわかるように注釈をつけたほうがよい。
・比高差増大の事象は、局所的か全川なのかがわかるように書いてほしい。
・インパクトレスポンスは、点線と実線の凡例、レスポンスに記載の河口干潟の保全、瀬・淵環境の保全の言葉の使い方を見直したほうがよい。
・課題となる改善が必要な項目と中・長期的な管理となる保全措置の項目については、わかりやすく整理をしていただきたい。
・維持管理において地域住民は、管理者になれない。維持管理は、河川管理者が責任を持ち、地域住民に協力していただくということになる。

・保全・再生は、３つのレベル（既に劣化しているもの、劣化を少し確認しているが今後気をつけるもの、今は問題ないけど非常に大事なもの）に整理できるが、整備内容に同じ尺度で扱うものでないと思う。
・計画書は、２章に全体にかかる内容を記載し、3 章に人為的インパクトの関係の分析により各項目の課題を整理し、４章の目標、５章の整備内容とつながるように記載するとよい。
・２章は、流量や河川水辺の国勢調査結果の変遷を整理し、減ってきているデータ等を記載することで、３章の課題と整合がとれる。
・３章の縦断的連続性の分断は、多くの情報が記載されているので、回遊魚の分布状況など一部 2 章に入れ代えると見やすくなる。
・河口干潟の保全は、具体的に何が劣化し、懸念されているかを整理したほうがよい。
・瀬・淵の環境は、劣化状態を把握するために、現状の環境を整理したほうがよい。
・今回の氾濫原再生箇所は、タナゴ類や淡水二枚貝の生息環境に適さない可能性があるので、実際の環境に即した生物が生息できる氾濫原環境の再生を目指したほうがよい。
・計画書にあるタナゴ類の保全は、本川より櫛田川流域の農業用水路の方が重要である。
・タナゴの生活史を全うさせるためには、冬場の渇水が原因で農業用水路の魚や貝が減少しているので、櫛田川だけでなく、流域の農業用水路に水を流すことが大切である。
・河川管理者が直接できないことを承知のうえで用水路については、住民との協働の課題一つとして用水路の問題があるなど、何らかの形で４章以降の記載を検討してほしい。
・この計画書には、鵜の駆除、アユに関する整備や清掃など櫛田川の環境を守るための漁業協同組合が行っている活動状況について記載していただきたい。
・東黒部頭首工より下流は、アユが産卵し、海産稚アユが遡上してくる一番大事なところである。国土交通省は、浚渫整備を進めていただきたい。
・流域の土砂管理は、ダムによる土砂供給量不足によって将来的に瀬淵の露岩化の拡大など土砂動態の視点で下流に影響が及ぶ可能性がある等、具体的に本文に記載したほうがよい。
・露岩化については、露岩している分布データを示してほしい。
・モニタリングは、一般論でなく、それぞれのメニューごとのモニタリング内容を記載したほうがよい。
・アユ放流を行っている櫛田川では、アユの資源量だけで環境を評価するのは危険である。アユ以外の指標についても考えたほうがよいと思う。

(3)今後の予定（資料-3）

今後の開催予定について説明を行った。

４．閉　会

以　上